

### 首都圏ミートパッカー輸出推進協が台湾で和牛普及セミナー開催



首都圏ミートパッカー輸出推進協議会(阿部昌史代表理事)は14～16日、台湾での市場調査および和牛普及セミナーを開催した。台湾向けは昨年秋に日本産牛肉の輸出が解禁され、堅調な伸びが続いている。今回、同協議会からは5人が参加し、台湾の大手商社の精肉売り場やスーパーマーケットの視察を皮切りに、新北市内で和牛セミナーを実施。和牛セミナーには、現地商社およびスーパーマーケットのバイヤーや鉄板焼きおよびフレンチレストランのシェフなど25人が参加し、台湾料理レストランを貸し切って開催された。

開会のあいさつで阿部代表理事は、海外でのジャパンプランド確立の重要性と和牛統一マークなど本物の日本産和牛だとわかる表示、流通方法確保の必要性などについて言及。セミナーでは協議会から2人が講演を行い、和牛の生産肥育管理、格付制度など、日本特有の和牛の個体管理の重要性と各部位の特徴を生かした調理方法などを紹介した。また、諸外国における日本産牛肉の需要動向について説明。それに伴い、牛肉のセット買いによるコストダウンの提案や、和牛以外の交雑種などの品種の良さを紹介した。講演後には、来場者全員が参加して熱心なディスカッションが行われるなど、日本産和牛への関心の高さがうかがえた。同協議会では今回の台湾でのセミナーを通じ、「今後の日本産牛肉の台湾輸出へのさらなる弾みがついたと実感した。需要の高まる来年2月の旧正月に向けて、さらに輸出が増加することを期待する」としている。